

ICTの日常的活用の中で子どもとともに創造する学びの研究

1. プロジェクトメンバー

- 石野正彦 教授
川住晴彦 研究員（上越市立末広小学校長） 藤田賢一郎 研究員（上越市教育委員会指導主事）
田邊道行 研究員（上越市立大手町小学校教諭） 安田ひとみ 研究員（上越市立和田小学校教諭）
金子剛志 研究員（上越市立大和小学校教諭） 戸田正明 研究員（上越市立春日小学校教諭）
戸田義隆 研究員（上越市立高志小学校教諭） 工藤寛之 研究員（上越市立城西中学校教諭）
数井正昭 研究員（上越市立吉川中学校教諭） 青木弘明 研究員（上教大附属小学校教諭）
松風嘉男 研究員（上教大附属中学校教諭） 吉川伸一 研究員（県立上越総合技術高等学校）
中野博幸 特任准教授
清水雅之 特任准教授
渡辺径子 特任准教授

2. 研究の概要

（1）研究目的

新しい学習指導要領が告示され、学校現場では実施に向けて様々な準備が進められている。現行指導要領における教育の情報化は、「コンピュータの教育」という狭いとらえられ方に教員の意識がとどまり、専門的な知識を必要とする特別な教育から抜けられなかった。

しかし、その間にも社会の情報化はますます進展し、教育の情報化の必要性は10年前以上に拡大増加している。今こそ、日常的なICTの利活用を通して、教育の情報化に取り組みねばならない状況にある。

教科指導におけるICT活用の推進や情報教育の体系的・系統的推進、学校における情報モラル教育と家庭・地域連携の推進、校務の情報化の推進、さらにそれらの推進を支援するための教員のICT活用指導力の向上研修やICT環境の整備、並びに、情報化の推進体制の整備の推進等、教育の情報化がかかえる課題は広く大きい。しかも、日常的な取り組みの中で達成されてこそ意義がある。

上越市は、児童生徒用のコンピュータの整備に加え、教員一人一台の貸与コンピュータの整備を積極的に進めている。教科指導でのICT活用は、児童生徒及び教員が日常的に活用する段階に進んでおり、全学級での電子情報ボードの利活用が次の焦点となっている。

また、学校現場の教員からの提案による校務支援システムの構築とその導入がなされ、学校経営の組織マネジメントという視点からの校務の情報化も進んでいる。

一方、上越地域には「生活科」や「総合的な学習の時間」が始まる以前より、探求的・体験的な学習を大切にしてきた教育風土があり、その伝統を受け継ぎつつ、上越市内の各校ともそれぞれが特色ある学校づくりを目指し、上越市総合教育プラン、上越カリキュラムを作成し、その実践に地道に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、日常的なICTの活用により教育の情報化を図ること目的として研究を行い、セミナーなど研修においてその実証的な検証を行う。

（2）本研究プロジェクトの取組

■ J A E T つくば大会の視察 平成21年10月30日（金）～31日（土）

研究主題：「わかる授業・魅力的な授業」「情報活用能力の育成」のためのICT活用

研究員は、日常の実践をまとめ以下のような発表を本大会分科会で行った。

研究発表1 上越市立和田小学校 安田ひとみ

小規模校における電子情報ボード活用の日常化を目指した取組

電子情報ボードの全教室整備がされた中で、小規模校の特性を生かし日常的な活用に取り組んできた。視覚的に児童の理解を深める資料・動画の拡大提示や操作をしながら互いの意見を交流する場としての活用など個々の取組を集約する中で成果や課題が明らかになった。

研究発表2 上越市立城西中学校 工藤寛之

ICTを活用した授業改善に向けた取組—電子情報ボードの導入をきっかけにして—

全教室に電子情報ボードが導入された環境で、ICTの日常化をテーマとして五教科を中心にした授業での活用を図った。校内研修体制や大学・教育委員会との連携体制などの課題を明らかにした。

研究発表3 上越市立大和小学校 金子剛志

電子情報ボードを活用した授業づくり—授業におけるICTの効果的な使い方を実践から探る

すべての教室に電子情報ボードが配置され、日常的に授業できる環境において、どのように活用すれば自動の学びを確かなものにできるか、日々の実践の中で見えてきた成果と課題をまとめた。

研究発表4 上越教育大学 中野博幸

PC画面を液晶プロジェクタや電子黒板に映すための罫線や図表を表示する授業支援ツールの開発

液晶プロジェクタや電子黒板などの情報教育機器を活用した授業を日常化することをねらいとして、その支援ツールを作成し実証的検証を行った。方眼、グリッド、斜方眼、円、時計、画像、数直線など7種類の図表を作成し、表示することができる。これを用いることにより、児童生徒の考え方に沿った授業を展開することが容易になった。

研究発表5 上越市教育委員会 藤田賢一郎

上越市における校務の情報化の取組—上越市学校教育支援システム活用の概要—

学校教育専用の「上越教育ネットワーク」の中で構築されたグループウェアシステムの活用により、学校教育や校務処理の実際と運用上の工夫などをまとめた。

研究発表6 上越市立春日小学校 戸田正明

視覚的カリキュラム表による特色あるカリキュラム作成

上越市では、学校の特色ある取組が視覚的に分かり易いように工夫された視覚的カリキュラム表を、市内全小中学校で作成している。視覚的カリキュラム表を作成するための視覚的カリキュラム表作成ジェネレータとWEB上に視覚的カリキュラム表を公開するツールを発表した。

■上越市教育委員会学び愛フェスタにおける電子情報ボード研修会の開催

放送大学中川一史教授を講師に、「電子情報ボードの利活用」という演題での講演を受け、ワークショップセミナーを実施した。

■学校教育実践研究センター自主セミナーの開催

2学期までの実践をまとめ、研究員が交代で講師になり教員対象の自主セミナーを開催し、実践的な検証をもとに研究を深めた。

セミナー1「プロジェクタXの活用」上越教育大学 中野博幸

セミナー2「相互交流を促すための活用法を探る」上越市立和田小学校 安田ひとみ

セミナー3「電子黒板活用中央研修伝達講習」上越市立城北中学校 滝澤 豊

セミナー4「デジタル教科書中学生版を使ってみよう」上越市立城西中学校 工藤寛之

セミナー5「5分間コンテンツをつくらう」上越市立春日小学校 戸田正明

セミナー6「電子情報ボードを活用した話し合いの授業」大和小学校 金子剛志

セミナー7「小学校英語での電子情報ボードの活用」上越教育大学 清水雅之

3. 研究の成果と課題

ICTの日常的な活用の中で見えてきたことは、何でもかんでもICTを使うことが日常化になるのかという疑問である。JAETつくば大会視察や連続セミナーを行うことで判明してきたことは、教師の日常的な授業づくりの中からICTの活用場面が生まれてくるということである。基本は授業づくりにある。電子情報ボードを前にすると、小学校の担任と中学校数学の先生が生活科の授業づくりについて熱く語るができることが「日常化」を最も表している場面と考える。